



陸軍中將正三位勲二等男爵永山
武四郎勲位進級ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十三年五月四日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内

閣

十二

内閣總理大臣 第一二二日

九九號

五月廿六日

明治三十三年四月二十六日

海防

内閣總理大臣

代 野 田 毅

賞勳局總裁



陸軍中將正三位勳二等男爵永山武四郎勳位進級之件別紙之通議定候條此段允裁ヲ仰ク

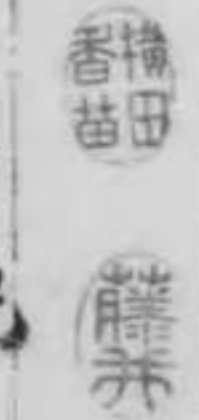
内閣

明治三十三年四月廿四日

賞勳局總裁



書記官



景範



議定官

否

可

陸軍中将正三位勳二等男爵永山武四郎

勳位進級議按

右明治五年開拓使ニ出仕以來北海道ニ職ヲ奉シ同道開拓事業及屯田兵業務ニ盡瘁シ

賞勳局

明治二十六年勳二等ニ叙セラレ爾來屯田兵本部長兼北海道廳長官トシテ勤績シ尋テ師團長トナリ精勵能ク其任務ヲ完フヤシカ
遂ニ健康ヲ害シ治スヘカラサルノ痼疾ヲ醸シ今ヤ職ヲ辭スルニ至ル依テ此際従前ノ功勞ヲ録シ勳位進級アランコトヲ陸軍大臣之ヲ奏請ス即チ勳等ヲ擬議スルコト左ノ如シ
叙勳一等授瑞寶章

賞勳局

勳第一九三號

勳第一九三號

明治三十三年四月十日

一陸軍中將男爵永山武四郎叙勳之件
右進達ス

明治三十三年四月十日

陸軍大臣子爵桂 太郎



内閣總理大臣侯爵山縣有朋殿

陸軍省

めくれず

陸軍中将正三位勲二等男爵永山武四郎

右明治四年七月被任陸軍大尉同五年九月被任開拓
使八等出仕以来職ヲ北海道ニ奉シ十二年五月魯國
哥爾薩港ニ差遣同二十年三月露米清國ニ差遣
セラル、等一モ北海道開拓及山田兵業務ノ研究ニ
非カルナク遂ニ同二十年六月北海道廳長官ヲ兼任
シ北海道ノ経営ニ於ル全部ヲ擔任シ尋テ廿四年
六月依頼北海道廳長官ヲ免セラレ專ラ山田兵ノ
事ニ任シ同廿九年第七師團ヲ編成スルニ方リ之ク
師團長ト為リ今日、該師團ニ於ル諸隊ヲ創設
スルニ至レリ要スルニ明治四年以来三十年間一日ノ如ク
北海道ノ開拓ニ從事シ海寒ノ地ニアリテ身体ノ

陸軍省

健康ヲ顧ミルニ自違ナリ遂ニ治スヘカラサル痼疾ヲ釀
スニ至ル身ヲ以テ國ニ殉スル者ト云ヘシ此間尚ホ明治六
年佐賀ノ役同十年西南ノ役二十七八年征清ノ役一モ
從軍セサルナリ今ヤ痼疾ノ為メ職ヲ辞スルニ至ル就テ
ハ永年ノ勤勞ニ對シ勳章ヲ賜フニ至ル勲
一等ニ叙シ瑞寶章下賜相成度履歷書ヲ具シ
及上奏候也

明治三十三年四月十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

